

## 朗読発表を通しての発音指導とその効果

### Correcting Pronunciation through Recitation Project

日本語の発音指導に関して、他の技能に比べて教室内での時間が十分に取れないという悩みを持っている教師は多いのではないだろうか。どんなに文法が正確であっても、発音の間違いで、話し手の伝えたいことが聞き手に正確に伝わらない場合もある。また、学習者の発音が正確でないために文を書く際にもつづりを間違えてしまうなどの問題もあるだろう。一口に「発音」と言っても、長音、促音、アクセント、またイントネーションなど、学生によって不得意な部分が違ってくる。どのように一人ひとりに合わせた指導ができるのか、そして、どのように発音指導を授業に取り組めるのかを考え、朗読発表という形で発音指導を行うことにした。

この朗読発表は、通常の連続した日本語のクラスではなく、「中級の読み物」のコースの中間発表の課題として行ったものだ。発表で朗読する文は、歌の歌詞や、小説の一節、詩などの中から学生自身に自由に選ばせた。この発表のための発音指導、または練習は、1) クラス内で全体指導、2) 2回の個人セッション 3) 各個人セッション後の自宅練習に分けられる。クラスの中では、長音、促音、アクセントの簡単な指導と練習を行い、個人セッションでは、一人ひとりの苦手な部分に焦点を当てて、発音矯正を行った。一人15分ほどの個人セッションで、セッション中は、学生の朗読を録音し、それを聞きながら間違いを指摘し直すという事を繰り返した。指導前、個人セッション後、そして実際の朗読発表での発音を比べると、ほとんどの学生の発音に変化が見られた。また、学生の意識を発音に向けさせるという点でも、今回のプロジェクトは成功だったのではないかと思う。しかし、一度の朗読発表で、すべての正しい発音がマスターできるわけではない。朗読発表以後も正しい発音を維持するために、さらに学生がより自然な発音が出来るようになるために、どのようなフォローアップが出来るのか、今後の課題としていきたい。